

暖地

今年 は 三段 構え で

夏 枯 れ の 克 服 を

暖地の飼料夏枯れは、牧草一本槍では仲々克服ができません。○牧草は耐暑性の種類と品種を選び、○熱帯性の青刈作物を取り入れ、○更に予備隊として根菜類等を加えた三段構えで、始めて夏枯れの克服が可能で、家畜の夏瘠もなく、牛乳を始めとした夏場の高価な畜産物の生産が期待できます。

春の追播で 早速役立つ

ライグラスのマンモス系

昨夏の夏枯れや、秋冬の障害で植生の疎くなった草地の回復には、早春のライグラス追播がなによりです。霜があっても心配ありませんから、なるべく早い時期に施肥と地表面を軽くカキ起こす簡易耕起を行ない、

◎採草地には **マンモスイタリアン**

早春追播により約2ヵ月で十分刈取れます。

◎放繋牧地には **マンモスペレニアル**

早春追播で1.5ヵ月後に軽度の放繋牧を行ない、その後は草丈20~25センチとなったら普通の放繋牧を行ないます。過度の放繋牧はいいませんが、早期放繋(草丈20センチ前後)は分蘖を旺盛にして草量が増え裸地が少なくなります。



左マンモスイタリアン 右イタリアン在来種

今春まく草地は

耐 暑 性 品 種 で

良質な草を生産してくれる、北方型牧草は夏枯れに弱いという先入観がありますが、品種によってずい分と差があります。初期生育の早いもの、病害に強いものを選んだだけでも、被害の軽減ができます。

雪たねが贈る優良牧草の耐暑性品種

- | | |
|-------------|------------------------|
| ○赤クロバー | ケンランドとベネスコット |
| ○オーチャード | 雪印改良種 |
| ○ルーサン | デュビーとウイリアムスブルグ、ナラガンセット |
| ○イタリアンライグラス | マンモンイタリアン |
| ○ペレニアルライグラス | マンモスペレニアル |
| ○白クロバー | ニュージーランドホワイト |

耐暑性牧草

夏枯れを知らない耐暑性牧草は春まきがよい

いね科

◎パーミューダグラス

放牧地、土壤保全用の夏枯れ知らずの匍匐型

◎バヒアグラス

放牧にも採草にも利用出来る南米原産の耐暑性牧草

◎ダリスグラス

九州地方で昔から夏によく繁茂していた(シマスズメヒエ)の改良種です。伸長採草型

◎サンドラブグラス

砂地でもよく育つ丈夫な草で、家畜の嗜好もよく、土壤保全と飼料用(昨年発表以来好評)

◎トールオートグラス

常緑の牧草で伸びが早く、乾草作りの最も容易なもの

◎ケンタッキー31フェスク

暑さに強く、多収な事では随一、早目、早目に利用すれば、嗜好もよしと再びローズアップ

耐暑性牧草の発芽を良好にするためには

- ・パーミューダ、バヒア、ダリス、ラブグラス等は地温が高く(15°C頃から)なってから播種すること
- ・バヒア、ダリスグラスの場合は、砂掘き其他で種皮の表面に傷をつけて播種すること

まめ科

◎ルーサン

高蛋白、高生産の永年牧草、世界の最優秀品種、デュビー、ウイリアムスブルグ、リゾーマ、ナラガンセット等、巨頭級がズラリ揃いました。

◎バズフットレフォイル

米国で夏枯れのひどい砂地や瘠地を立派に草地化して「黄金の牧草」の称号を得た本草が日本で何故普及しないか、その原因の一つに、根粒菌が不備だった事もあったでしょう。しかし今春からは準備OK。

暖 地

暑い夏に利用する

青 刈 作 物

ソルゴーとスーダングラス

◎暑熱に負けずグング伸び一夏に2~3度刈りの出来る甘味に富んだ青刈作物ソルゴーは暖地では欠かせない作物です。

○サイレージ用には 熟期の揃う多収な雪印ハイブリッドソルゴー

○青刈連続利用には 再生が早く葉の多いスイートソルゴー

何れも最近発生が多くなった細菌性葉枯病に強く豊富な緑葉の生産が出来ます。塩害にも強く干拓地にも適します。

◎風に強く、暑さ早乾に強く、夏から秋にかけての気象災害によく耐えて多収される青刈作物、それはスーダングラスです。一夏に3~4度の刈取りが出来また乾草にも作れますから、夏作物中で最も長期利用が出来ます。

品種は葉が枯れず多収で、嗜好性の高いパイパーが最高級の品種です。



真夏にグングン伸びるスイートソルゴー

暖地で利用されるデントコーン品種

○サイレージ用 (よく子実のつくもの)

早生→TC5号(交3号ともいう) TC1号(交2号) 中生→長交161号, 長交202号, 晩生→長交227号(交1号)

○青刈用 白色種, 黄色種

殆どが葉のテオシント

家畜の嗜好もよく、一夏に3~4度刈りできる葉だけの多収青刈作物です。

デントコーン種子不足対策として



ソルゴー } を活用して
ラオシント }
スーダン } 下さい。

これ等は

- ① デントコーンと同様、夏から秋への青刈ができる
- ② 家畜の嗜好よく、サイレージとして貯蔵もできる
- ③ デントコーンより早刈や台風にも耐える
- ④ 3~5回と何回も刈りできる

葉だけのテオシント

ローズグラス 品不足

海外なので採種が不調で今春は試作用のみ

鶏の緑餌用作物

タンバラ

夏にグングン伸びて、トリの喜ぶ緑餌はタンバラ以外にありません



ソルゴーとカウビーの混作

高蛋白の青刈豆類

カウビー, 青刈大豆, 大葉つまめ

◎カウビーは被覆作物の代表で悉く地面を覆う程よく繁茂し、然も夏の豆類の大害虫、こがね虫の食害もなく葉の多い高蛋白質の青刈豆科作物でデントコーン、ソルゴーなどと混作利用もできます。品種はテイラーが第一

◎青刈大豆作り馴れた作物で瘠地でもよく繁茂する青刈大豆は短期間で収刈できるのが特色です。裏作麦の跡地に作って、イネ移植前の2ヶ月ぐらいで十分利用できます。早まきには、改良黒千石、十勝長葉、雪印10号、中間まきには、青千石、岩手黒目、晩まきには、黒田六尺等の利用が適切です。

◎大葉つまめカウビーと青刈大豆の双方の性質を具備しています。単作またはデントコーン等に混播。

飼料根菜その他



元来が寒冷地で栽培され、冬に貯蔵されて冬の青草として保健と生産増強に利用されてきましたが、暖地で早春(3月)まきしますと、6~7月、時には8月にわたって利用できます。暑くて他の青刈り類は見向きもしない家畜が、ビートだけはガブリ、ガブリと食いつきます。糖分が多く、多汁で、栄養価も中庸、家畜がよく知っています。

- 播種は早く関東3月早々、西南暖地は更に早く2月上旬、紙筒を利用する育苗移植では更に約1ヵ月早く、暖地では生育期間を夏に延ばすよりも春早くした方が有利で、この点紙筒移植がすすめられます。
- 耕起前に完熟堆肥と石灰を施用
- 播種量は10ヶ畝当り直播1.0ヶ畝紙筒育苗0.2ヶ畝
- 畦幅60ヶ株間25ヶ内外
- 間引きは本葉2~3葉期に、中耕除草2~3回
- 播種2ヵ月目頃から褐斑病防除に銅製剤を2~3回
- 早取り用にはハーフェロー、パーレスを、晩取り用には耐病性品種M. G. Mを

早春まき夏どり(3~4ヵ月間)で東北、関東、西南暖地で7~10トンの多収を得ている方がたくさんおられます。

真夏に

青刈りひえで良質乾草をドッサリ

梅雨あけの高温多照、一日で乾草の仕上がる頃になると、牧草は夏枯れで草がない。この時期に乾草づくりのできる、作り易く多収なものに青刈りひえがあります。品

種としては早生白ひえが好評です

- 播種は秋まき作物収かく後の6月上旬頃
- 整地は丁寧に
- 施肥は硫安20、過石15、塩加10ヶ畝
- 20~30ヶの畦幅にして4ヶ畝の種子を播種
- 覆土は浅く、必ず鎮圧を
- 初期生育が遅く雑草に注意、雑草が目立って来たら除草剤2.4.Dの撒布を
- 播種後約2ヵ月で出穂刈取ること

僅か2ヵ月で7~800ヶ畝の高栄養、好嗜好の乾草が得られ、跡地はかぶや、青刈りとうもろこしの初秋まきに利用できます。

ラデノクロバーが

悪いものではありません

暖地酪農はラデノとイタリアン酪農といわれたくらい。戦後急速に普及したラデノクロバーが、最近一寸伸びなやんでいるようですが、

○ガスを起す ○乳は出るが牛がヤセル ○暑さに弱い等々からですが、これはラデノが悪いものではありません、低刈り(放繫牧採食はこれと同じ)に耐えるライグラスやメドウフェスクとの混播や追まきし、乾物補給(乾草や藁の併給)を行ない、暑さに備えてラデノだけでなしにニュージランドホワイトも混播して置きますと、今の弊害はほとんど除去されましよう。ラデノクロバーの高い蛋白生産を大いに活用しましよう。

ビックリするほど

大きくなる青刈りえん麦 太豊

春できるだけ早く青刈りえん麦、太豊をまきしますと、葉も茎も草丈もビックリするほど大きくなります。

○水田前作の青刈りえん麦

4~5°Cの低温でも発芽しますから春先きなるべく早く播種(10ヶ畝当6~7ヶ畝)しますと2~3ヵ月の短期間で収かく期に達します。

○畑地の早春まき青刈りえん麦

食用夏作物(果菜類、豆類、陸稲等)の前作としても短期間に収穫出来る青刈りえん麦は有利です。

○青刈りえん麦にはイタリアンライグラスの混播(えん麦6~7ヶ畝にイタリアン1ヶ畝内外)を行ないますと一層増収が期待できます。